

	情報工学部情報工学科
DP	<p>情報工学科は、本学立学の精神と情報工学部および本学科人材養成目的に基づき、以下の要件を満たす学生に対して卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与します。</p> <p>①幅広い教養と語学力を身につけ、それに裏打ちされた広い視野と高い倫理観をもって、社会の発展に貢献する意志と能力を有する。</p> <p>②情報工学の基礎となる知識を修得し、それを活用して種々の問題を解決する能力を有する。多様で幅広い情報技術のうち、ネットワークシステム、フィジカルコンピューティング、データエンジニアリング、ヒューマン・メディアの4分野の少なくとも1つに関する基礎的な知識を修得し、それを社会における諸問題の解決のために活用する能力を持つ。</p> <p>③生涯にわたり、主体的、自立的に探究する能力を身につけ、さらに、社会において課題解決に向けて協働して取り組むことのできる能力を有する。</p>
CP	<p>情報工学科は、卒業認定・学位授与の方針に示す能力を身につけさせるため、教養教育と専門教育より構成される教育課程を編成します。教養教育課程および専門教育課程のそれぞれにおいて一定数以上の単位の修得を義務付け、情報工学の枠を超えた深い知識・理解を身につけるための幅広い学修を求めます。</p> <p>①教養教育は、外国語、体育科学、人文科学、社会科学等の教養科目と数学、物理学、化学、技術者倫理等の理工学基礎科目により編成される。これらの科目を学ぶことにより専門分野を超えた幅広い視野と倫理観を養うと共に、専門教育に進む上で欠くことのできない知識を養うことができるようにする。</p> <p>②専門教育では、情報工学の専門知識を深めるために基礎から応用への順次性を保ちながら、科目相互を体系的に編成している。情報工学に共通する基礎的科目群と、ネットワークシステム、フィジカルコンピューティング、データエンジニアリング、ヒューマン・メディアの4分野に関する科目群を体系的に用意する。講義科目と、それに関連する演習・実験・実習が有機的に結びついた授業を実施することにより、机上の学修にとどめず幅広く専門知識を学び、社会の変化に自在に対応して問題解決する能力を養うことができるようにする。</p> <p>③教養教育で能動的学修の要素を取り入れた教育を用意する。さらに、専門教育では動機付けの教育を行うと共に、複数の科目でそれに関連する演習・実験・実習科目を実施して、能動的学修を行うことができるようにする。最終学年の4年次で行う卒業研究では、主体性と他者との協力関係を養い、生涯にわたって活かすことのできる総合的学習と創造的思考力が培われるようにする。</p> <p>④情報工学科では、シラバスに示した内容に基づいて厳格に成績評価して単位認定を行い、学修指導や各種順位づけに利用できるようにする。成績や学修態度を総合的に判断して個別指導する体制を整え、学生が各自の達成度と将来計画に応じた学修を進めることができるようにする。</p>
AP	<p>情報工学科の卒業認定・学位授与の方針を理解し、高等学校等での学習を通して、次のような能力・意欲を身につけている人を受入れます。</p> <p>①一般選抜では、数学、理科および英語の高い基礎学力を有する。学校推薦型選抜・特別入学試験では、高等学校教育の内容を堅実に修得し、数学、理科および英語の基礎学力を有する。総合型選抜では、数学、理科および英語の基礎学力に加え、特定の分野において特筆できる経験・技能を有する。</p> <p>②数学、理科および英語の基礎学力やプログラミング等の技能を活用して、自ら問題を発見しその解決に向けて探究し、成果等を表現するための基本となる思考力・判断力・表現力等を有する。</p> <p>③情報工学および関連する理工系の科学・技術に興味をもち、主体性を持って多様な人々と協力して、情報技術を用いて社会貢献する意欲を有する。</p>
アセスメント・ポリシー	<p>学科レベルでは、ディプロマポリシーの科目群ごとのGPAの数値に加えて、単位取得状況、学修行動調査、卒業時調査及び学生アンケートにより評価する。</p> <p>科目レベルでは、シラバスに記載してある方法で成績評価を行う。評価は、テストやレポートなど科目の内容に合わせた方法で実施する。</p> <p>卒業研究については、学科が定める評価基準に基づいて卒業論文等の成果を評価し、学科レベルでは、その集計値で評価する。</p>